

AT BOOSTER

SPORT LINE

この度は弊社製品<ATブースター>をお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。本製品はスロットルセンサーの信号を調整することにより、AT車のシフトポイントを変更させる為のコントローラーです。

本製品を安全にご使用して頂く為に、装着ならびご使用の前に必ず本説明書を読んで、内容を十分に理解のうえ取り付け作業をおこなって下さい。

お願い! 本製品は性能向上、適合追加の理由により、頻繁に取り扱い説明書の変更をおこなっております。お手元の取り扱い説明書のVol番号が最新でない場合はご面倒でも当社ホームページ上の取り扱い説明書を参考に取り付け、調整をおこなって下さい。

警告 死傷につながる恐れがある事故を未然に防ぐ為の事項を示してあります。

- 運転者は、走行中に本製品を操作しないで下さい。運転操作の妨げになり、事故の原因となってしまいます。
- 本体は運転の妨げにならない場所へ固定して下さい。
- 本製品はスロットル信号制御を目的に製作されています。配線の接続及び、使用方法を間違えると車両の不調・破損・事故をきたす場合が考えられますので十分慎重に取り扱い下さい。なお、何かの原因で車両の不調・事故が発生しても当社では一切の責任を負えませんのでご了承下さい。

注意 負傷または、車両や商品の損傷を未然に防ぐ為の事項を示してあります。

- 取り付け作業はエンジンを停止させ、専用設備をもった安全な場所でおこなって下さい。必ず専門の業者に依頼して下さい。
- 本製品およびハーネスを高温部もしくは水のかかる場所に設置することは絶対にさけて下さい。また製品を落としたり、衝撃を与えたりすると故障の原因になります。
- 製品を分解もしくは改造して使用した場合、当社では一切責任を負うことが出来ません。

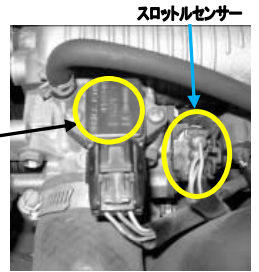
- 【付属品】** ◎AT BOOSTER本体×1 ◎専用ハーネス×1 ◎中間ハーネス×1 ◎両面テープ(大)×1 ◎タイラップバンド×4 ◎エレクトロタップ大×1 ◎オスギボシ・スリーブ×各1 ◎10Aヒューズ電源

【取り付け方法】

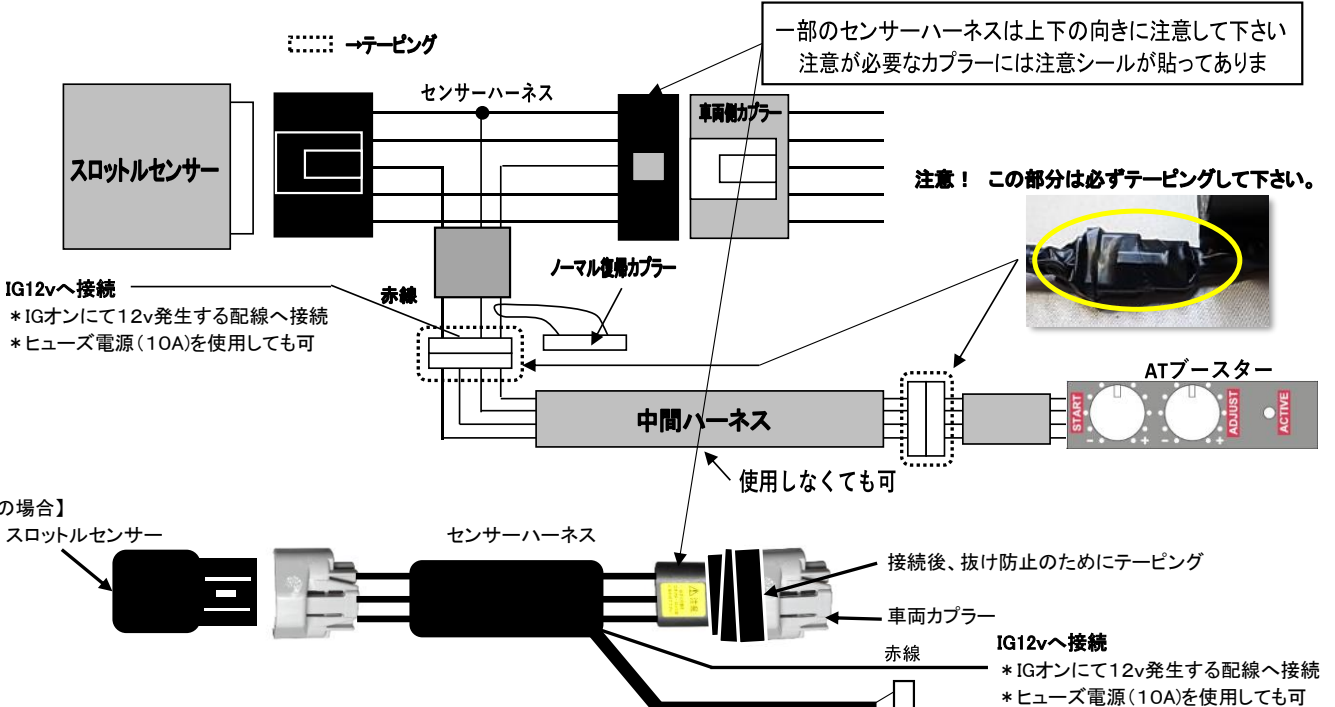


- エンジンを停止させ、エンジンキーを抜いてから**10分間以上**たってから作業をおこなって下さい。
* 車両のECU電源が完全にOFFになる前に作業をおこなってしまった場合エンジンチェックが点灯してしまいます。

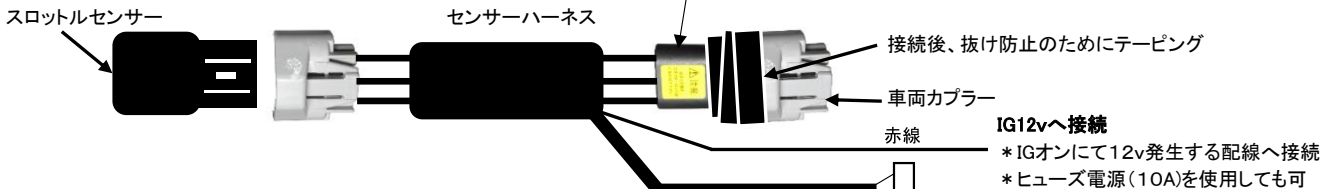
- ①接続するセンサーの位置を確認して下さい。
* エンジンルーム内スロットルボディに装着されているセンサーです。
- ②車両スロットルセンサーのカプラーを一旦抜き、付属のセンサーハーネスを割り込まして下さい。
* ホンダ車は圧力センサーのカプラーと同形状のカプラーを使用している場合があります。注意して下さい。
- ③センサーハーネスより出ている赤線をIG12vの発生する箇所へ確実に接続して下さい。
* 付属のヒューズ電源(10A)を使用出来る車両もあります。
- ④センサーハーネスと中間ハーネス、中間ハーネスと本体の接続部分(4極)は非防水構造です。配線後に必ずテーピングして下さい。
* 中間ハーネスは使用しなくても可、セッティング時のみ中間ハーネスを使用して車内に引き込んで可



【接続図】



【ATB-D1の場合】



【本体設置方法】



- ◎ 配線は点火系、インジェクター系、オーディオアンプ、地デジ等のノイズが発生しやすい配線と束ねないで下さい。誤動作する可能性があります。
- ◎ 配線はファンベルトや、可動する部分に干渉しないように引き回して下さい。
- ◎ 配線は耐熱、耐火性ではないので高温部分には干渉しないように引き回して下さい。
- ◎ 本体に印刷されている文字は特殊塗装を使用しておりますが、両面テープ等により塗装がはがれる場合があります。ご了承下さい。

<車内設置の場合>

- ◎ 本体を車内に設置する場合は、中間ハーネスを使用して配線を車内に引き込んで下さい。
* ハーネスの長さが不足してしまう場合は、別売の延長ハーネス(DCMX-E12 ¥2,000 1.2m)をご使用下さい。



<エンジンルーム設置の場合>

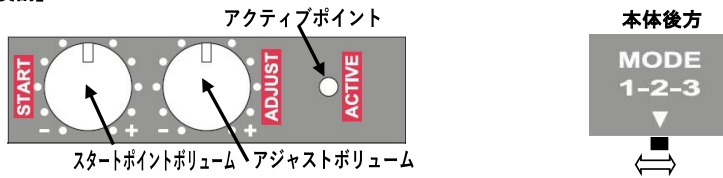
- ◎ 本体をエンジンルーム内に設置する場合は、下記点に注意して本体を固定して下さい。



注意 本体内部は完全な防水処理はされていません! 必ず下記事項を参考に本体を固定して下さい。

- ◎ 熱、水のかからない場所を選んで、本体を固定して下さい。例: リレーBOX横
- ◎ 調整面を必ず上側に向け固定して下さい。
→ 本体内部の水分が下側へ逃げるように設置して下さい。
- ◎ 調整面へ防水ゴムカバーを付けて下さい。
→ 調整面に水、埃がかかるのを防いで下さい。

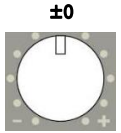
【各部名称・役割】



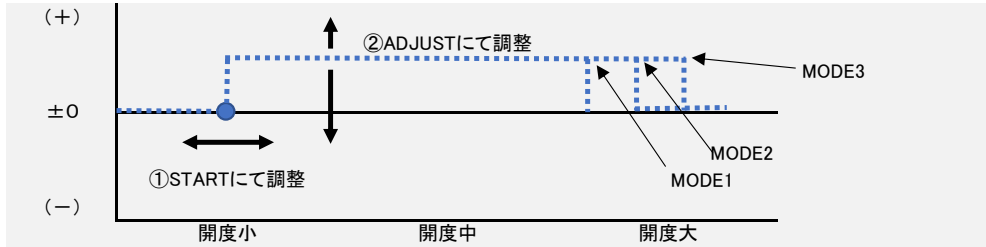
- ①START** スタートポイントボリューム
 ◎どのくらいのアクセル開度より制御を開始するか?を調整するボリュームです。
 右に回すとアクセル開度が大きくなってからの制御開始、マイナス側に回すとわずかなアクセル開度にて制御を開始します。
 *アクセルOFF時には制御を入れないで下さい。アイドル回転不調、エンジンチェック点灯の原因になります。
 *制御の開始はアクティブポイントLEDの点灯により確認できます。
- ②ADJUST** シフトポイントアジャストボリューム
 ◎制御用のメインボリュームです。センター位置が±0%、プラス側に回していくとシフトアップポイントが遅く、マイナス側に回していくとシフトアップポイントが早くなっていきます。注意! マイナス側の操作は微調整になります。
- ③MODE**
 ◎MODEは制御を終了させるアクセル開度の調整です。車両、アジャストボリュームの設定値により異なりますので【調整方法】にて確認して下さい。
- ④アクティブポイントLED**
 ◎制御をおこなっている時に点灯します。



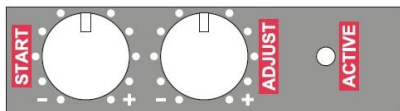
注意



★制御イメージ



【調整方法】 * 確認は車両を停止させ、安全な場所でおこなって下さい。



- ①下記設定値を参考に仮設定をおこなって下さい。
 ●STARTを±0に合わせて下さい。
 ●ADJUSTを±0に合わせて下さい。
 ●MODEをMODE1に合わせて下さい

②アクセルを踏まない状態でイグニッションキーをオンして下さい。(エンジンは始動しない状態にて調整をおこなって下さい)

③アクセルをわずかに踏んだ時(10%程度)にアクティブLEDが点灯するよう、STARTを徐々にマイナス側に回して調整して下さい。
 *アクセルOFF時には制御を入れないで下さい。アイドル回転不調、エンジンチェック点灯の原因になります。



重要

④アクセルを100%踏んだ時にLEDが消えるか確認して下さい。
 *アクセル開度100%時にLEDが消灯しないと、エンジンチェックランプが点灯してしまいます。



注意

⑤エンジンを始動させ、走行させながらADJUSTボリュームの最適値を決定して下さい。
 *好みのシフトアップポイントを探して下さい。

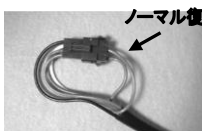
●ADJUSTボリュームをマイナス側に調整してご使用される場合には、STARTボリュームは必ず-2~+5の範囲内でご使用ください。
 この範囲外でご使用になると、車両設定値の関係上、異常と判断しエンジンチェックランプが点灯する可能性があります。



注意

⑥MODE2もしくは3にした場合、制御幅が広がります。ADJUSTボリューム決定後にアクセル開度100%にてLEDが消灯することを確認してモードを切り替えて下さい。
 ●アクセル開度100%にてアクティブLEDが点灯する場合、車両ECUが異常と判断しエンジンチェックランプが点灯してしまいます。
 調整は慎重におこなって下さい。

【ノーマル復帰方法】 ボリュームを0位置にするとノーマル状態になりますが、それでも不調が修正されない場合、ハーネスの『ノーマル復帰カプラー』にてノーマル状態にして、不調原因を確認してみてください。



ノーマル復帰カプラー

- ①センサーハーネスの4極カプラーを抜き、センサーハーネス側へノーマル復帰カプラーを差し替えて下さい。
 ②ノーマル復帰しても不調の状態が直らない時は?
 ●センサーハーネスをセンサーより抜き、完全にノーマル状態に戻して下さい。
 ●完全にノーマル状態にしても直らない場合、ATプースターの制御とは関係の無い部分が原因と考えられます。



重要

センサーハーネスはエンジンルーム内で使用する為、長期間使用した場合ハーネスが損傷し接触不良を起こす可能性があります。
 2年以上使用した場合には新品と交換をお勧めします

【トラブルチェック】

<アイドル回転不調>

- ハーネスの挿入方向、接触等を再確認して下さい。
- 取り付け作業時にバッテリーをはずしてしまっ時はアイドル回転学習が必要です。ボリューム位置でノーマルにするか、ノーマル復帰カプラーでノーマル状態にし、しばらく走行を続けてアイドル回転の学習を覚えさせる必要があります。それでも改善されない場合にはお手数ですがカーディーラー等にて確認して下さい。

<エンジンチェック点灯、吹けあがらない>

- ハーネスの接触、挿入方向を再確認して下さい。
- ホンダ車の場合スロットルセンサー付近に同形状のカプラーの圧力センサーがあります。圧力センサーのカプラーに接続した場合、正常に作動しません。

<作業中のミス等にてエンジンチェックが点灯した場合>

- カーディーラー等の専用機器のある工場にてエンジンチェックランプを消してもらって下さい。
- 一部の車両はバッテリーを20~30秒はずすことにより消えます。
- ノーマル状態にて、走行→エンジン停止を3回以上繰り返し、正常な状態を車両ECUへ認識させてやると消える場合があります。